国際会議誘致における
海外競合都市・調査レポート

シンガポール

理工系分野に強みを持つシンガポール国立大・南洋理工大学が主要な学術・研究機関。「スマートネーション」構想のもと、最新のデジタル技術を活用した各産業の高度化が目指される。

都市概要

© OpenStreetMap contributors

都市・経済規模（共に2019年）
- 人口：570万人
- GRP：41.0兆円 ※1

国際アクセス性
- 国際線就航都市：156都市
- 国際線発着回数：38.6万便

国際会議実績（ICCA件数）
- 771件（2014-18年合計）

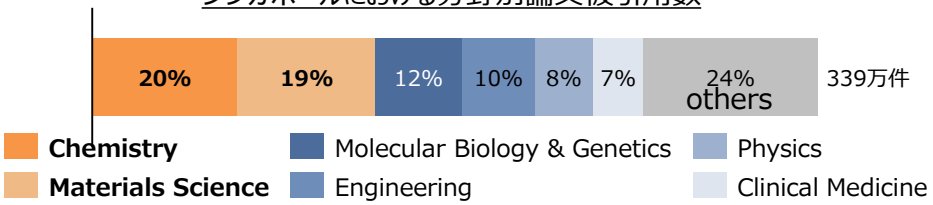
国際会議施設：Sands ※2
- 最大ホール収容人数: 8,000人
  展示面積：38,852㎡
- 国内中心部に位置する大規模施設。統合型リゾートの一部。

国際会議に係る主な取組み

- シンガポール政府観光局の下に置かれた、Singapore Exhibition and Convention Bureau (SECB)が誘致・開催支援を担う。
- SECBの国際会議支援施策には、「外国人参加者700人以上」が条件として設定されているものがある。
  また、SECBは航空宇宙・先端製造業・応用医学・金融サービス等をシンガポールの主要産業としてWebサイトでアピールしている。
  これらが、SECBの誘致・開催ターゲットと見られる。
- 医療分野をはじめ様々な分野の専門家をカンファレンス・アンバサダーに任命し、国際会議開催地としてのシンガポールのアピールに注力。
- 地元産業界とも協力。例えばシーメンスの研究開発拠点を訪問するツアーを国際会議主催者に提供し、国際会議参加者と研究者の交流の場を設けている。

学術集積の特徴

シンガポールにおける分野別論文被引用数



- ✓ シンガポールの論文被引用数は理工系分野が多い。化学や材料科学分野が特に多く、医学系の論文被引用数の割合が低いことが特徴的。
- ✓ シンガポール国立大（NUS）と南洋理工大学（NTU）が主要な機関。NUSはコンピューターサイエンス・AI・サイバーセキュリティ等の研究が盛ん。NTUは化学・航空宇宙・ロボット工学等に強みを有する

産業集積・戦略の特徴

【主要産業】
- ✓ 医薬品・バイオ／航空宇宙／電子機器製造／化学／金融　等

【今後の産業戦略】
- ✓ シンガポール政府は2014年より「スマートネーション(スマートな国家)」構想を推進。
  データとデジタル技術を活用し、国全体のスマートシティ化や、よりよい暮らしの実現等が目指される。
- ✓ 「産業変革プログラム」では、製造業や建設・不動産等の6産業で、最新技術を活用した高度化・高付加価値化が掲げられている。

Japan. Meetings & Events
New ideas start here

※1シンガポール・ドル80.8円（2019年平均為替レート＜TTS＞）として算出。
※2正式名称はSands Expo and Convention Centre。
この他にも主要施設として、Suntec Singapore Convention & Exhibition Centre（最大ホール収容人数：10,000人弱・展示面積：12,000㎡）がある

バンコク市*1・バンコク首都圏

マヒドン大学がASEAN内の医療研究機関の連携を推進するなど、医療分野の研究が盛ん。産業のデジタル化・高度化を目指すThailand 4.0で指定された10分野を中心に産業振興を図る。

都市概要

© OpenStreetMap contributors

Centara Grandの外観

バンコク市の都市・経済規模
- 人口：567万人(2019年)
- GRP：18.9兆円(2018年) *2

国際アクセス性
- 国際線就航都市：150都市
- 国際線発着回数：29.2万便

国際会議実績（ICCA件数）
- 567件（2014-18年合計）

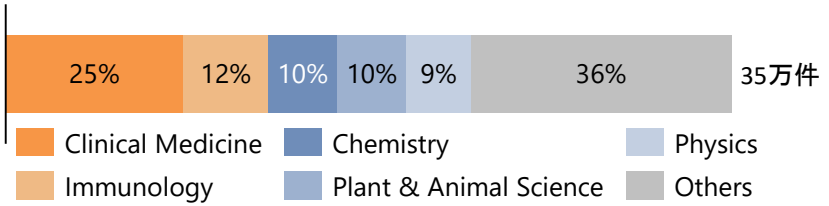
国際会議施設：Centara Grand *3
- 最大ホール：5,250㎡ *4
- このホールは3パターンに分割可能となっており、様々な国際会議に対応できる。
- 市内中心部のホテル内に整備されている。

国際会議に係る主な取組み

- タイには都市別のコンベンションビューローがなく、国の組織であるThailand Convention and Exhibition Bureau (TCEB) がMICEに関する各種施策を展開している。
- TCEBは、1,000人以上の国際会議を誘致ターゲットとしている。また、政府戦略「Thailand 4.0」で掲げられている重点分野10産業（バイオ技術・デジタル技術・メディカル・自動化およびロボット・航空およびロジスティクス・農業・スマート技術・メディカルおよびウェルネスツーリズム・次世代自動車・食料品）に関連する国際会議を優先的に誘致している。
- TCEBは、MICE・観光産業における担い手の拡大とサービスの質向上を戦略に掲げ、人材育成に注力している。地域の大学や国際的なMICE業界団体と連携し、人材育成プログラムを設計・展開している。

学術集積の特徴

バンコク首都圏における分野別論文被引用数



- ✓ 北海道の論文被引用数（約45万件）を下回る規模。
- ✓ 論文被引用数の4割を医療分野（臨床医学・免疫学）が占めている。このうち約11万件をマヒドン大学が占める。
- ✓ マヒドン大学は、ASEAN加盟国に拠点を置く大学が加盟する医療推進ネットワークを設立、地域の学術機関の連携を促進している。

産業集積・戦略の特徴

【現在の産業集積】
- ✓ バンコク市内には小売・サービス業や金融業が集積。
- ✓ バンコク首都圏では、自動車製造業や電子部品製造業が集積。

【今後の産業戦略】
- ✓ 2015年、タイ政府は長期ビジョンThailand 4.0を策定。産業のデジタル化を推進するこの計画では、重点10分野に①次世代自動車工業、②スマート・エレクトロニクス、③富裕層・医療ツーリズム、④農業バイオテクノロジー、⑤未来食品*5、⑥ロボット産業、⑦航空・ロジスティクス、⑧バイオ燃料・バイオ化学、⑨情報通信業、⑩医療ハブが設定された。
- ✓ バンコクではスマートシティ開発計画（One bangkok）が進められている。バンコク市の産業戦略の中心的なものであり、三井物産が地元企業と連携するなど、日本企業も数多く参画している。

*1「バンコク市」は正式には「バンコク都」だが、この資料では「バンコク市」と表記。 *2 GRPは2018年の国際通貨基金（IMF）データを1ドル=110円として算出。
*3 正式名称はCentara Grand & Bangkok Convention Centre at CentralWorld。 *4 このホールを展示ホールとして利用することも可能。
*5 サプリメントなどの医療・健康食品や有機農産物など、高付加価値な食品の製造業を指す。

ソウル特別市・京畿道

ソウル大学（医学・材料科学等に強み）や延世大学（医学に強み）が主要な学術・研究機関。ソウル特別市は、既に集積している金融・IT・デジタルコンテンツ産業を更に強化する方針。

都市概要

© OpenStreetMap contributors

ソウル特別市の都市・経済規模
- 人口：970万人(2019年)
- GRP：44.3兆円(2018年) ※

国際アクセス性
- 国際線就航都市：97都市
- 国際線発着回数：39.0万便

国際会議実績（ICCA件数）
- 697件（2014-18年合計）

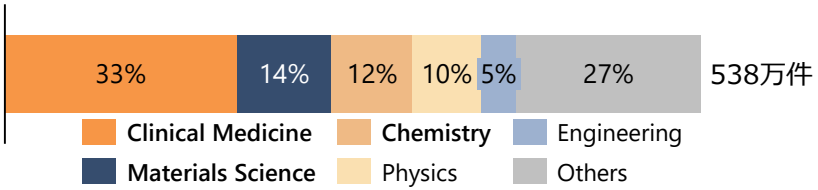
国際会議施設：COEX
- 約1万㎡の展示ホールを有する大規模複合MICE施設（4展示ホール・計3.6万㎡はメイン会場として使用可）。
- 宿泊施設や飲食・商業施設の集積など、大規模国際会議の開催に適した条件が整っている。

国際会議に係る主な取組み

- ソウル特別市の国際会議誘致は、同市観光公社（Seoul Tourism Organization, STO）傘下のSeoul Convention Bureau (SCB)が実施。
- SCBは、大規模国際会議（3,000人以上）や、地域への経済効果が期待される会議（併設展示会の有無や、開催日数、会議参加登録料などで評価）を戦略的誘致対象として設定している。
- 誘致対象分野としては、ソウル特別市が経済ビジョンや産業政策における重点分野を設定している。具体的には、IT・イノベーションや環境、文化・コンテンツ等の分野が戦略的ターゲットとして挙げられている。
- また、ソウル特別市内のMICE施設やホテル等で構成されるSEOUL MICE ALLIANCE (SMA)を構築し、地域一体となった誘致体制を実現している。

学術集積の特徴

ソウル特別市および京畿道における分野別論文被引用数



- ✓ この地域の主要な大学であるソウル大学は医学・材料科学・化学・微生物学・工学等の分野に、延世大学は医学分野に強みを有する。
- ✓ ソウル大学は基礎科学研究院（IBS）のナノ粒子研究が特に有名で、論文被引用数は世界25位（日本トップは、世界22位の物質・材料研究機構）。
- ✓ 医学専門学校を前身とする延世大学は、放射線医療に強みを有する。

産業集積・戦略の特徴

ソウル特別市の主要産業

- ✓ ソウルの主要産業は、金融・デジタルコンテンツ/エンタメ・IT/エレクトロニクス関連産業
- ✓ 京畿道の主要3大産業は、半導体・ディスプレイ・自動車

【今後の産業戦略】
- ✓ ソウル特別市は、IT・エレクトロニクス関連等の先端企業の本社機能の集積、大規模国際空港や国際港湾との地理的近接性を活かし、より活力のあるスマートな経済都市への転換を目指す。
- ✓ 京畿道は、板橋・光教等のテクノバレーを中核とした、ITやバイオテクノロジー分野に注力する方針。

※1KRW（韓国ウォン）=0.10JPY（2018年年平均TTS）として算出。

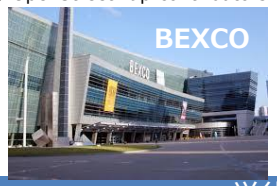
釜山広域市・東南圏

蔚山大学校（医療に強み）や釜山大学校（材料科学に強み）が主要な学術・研究機関。釜山港を中心に海運や海洋水産業が発展。東南圏は国内最大の工業地帯となっている。

都市概要

（慶尚南道・蔚山広域市・釜山広域市）

© OpenStreetMap contributors



釜山広域市の都市・経済規模
- 人口：346.5万人(2019年)
- GRP：8.4兆円*1(2017年)

国際アクセス性
- 国際線就航都市：N/A
- 国際線発着回数：3.2万便

国際会議実績（ICCA件数）
- 167件（2014-18年合計）

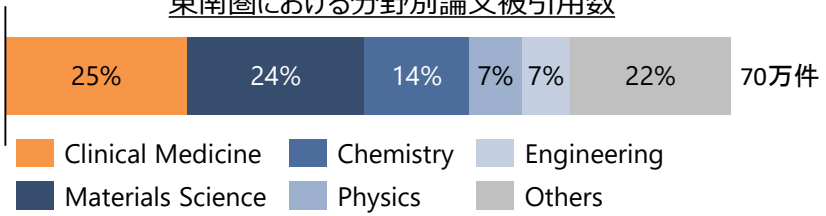
国際会議施設：BEXCO
- 最大ホール収容人数：4,500人
  展示面積：計46,380㎡
- 2001年に整備された地域最大の複合型MICE施設。

国際会議に係る主な取組み

- 釜山広域市は2018年にMICE産業を同市の五大戦略産業の一つに選定し、アジアのMICEハブ都市としての地位確立を目標に掲げている。
- 釜山広域市の外郭団体である釜山観光公社（Busan Tourism Organization；BTO）が国際会議の誘致戦略の策定や誘致に向けた取組みを実施。国際会議主催者向けの支援として、国際会議の誘致支援・開催が決定している国際会議の広報支援・国際会議開催時の支援に分け、主催費用の補助を実施している。
- BTOでは、国際団体等による主催の、参加者数300人以上（5カ国以上の参加者）・開催日数3日間以上の国際会議の他、UIAやICCAの定義を満たす国際会議を誘致ターゲットに設定している。さらに、地域の産業振興に寄与する分野の国際会議も誘致ターゲットとしている*2 。

学術集積の特徴

東南圏における分野別論文被引用数



✓ 宮城県の論文被引用数（約72万件）とほぼ同規模。臨床医学や材料科学分野の割合が高いことが特徴。

✓ 医療系の集積は蔚山大学校等、蔚山広域市に集中。釜山広域市は釜山大学校を中心とし、材料科学・物理学の集積が厚い。釜山大学校は、ロールス・ロイスやドイツの研究機関等との共同研究も展開。

産業集積・戦略の特徴

【釜山広域市】

✓ コンテナ取扱量が世界第5位の釜山港を中心に海運・海洋水産業が発展。近年は映画などコンテンツ産業も盛ん。

✓ 海運・物流業の強化、スマートシティの推進、金融産業の集積に今後は注力。

【東南圏】

✓ 蔚山広域市に現代自動車の工場が立地。東南圏の自動車生産額は国内の4割を占めるなど、国内最大の工業地帯となっている。近年は製造業の高度化を目指す。

✓ 慶尚南道は農産業の集積が厚く、IT技術を活用した農園の整備等が進められている。

*1 1円=10.1ウォン（2017年平均為替レート＜TTS＞として算出）
*2 具体的なターゲット分野は明記されていない。

台北市・台北都市圏

台湾大学（化学・物理学・数理学に強み）や中央研究院が主要な学術・研究機関。台北市の主要産業であるバイオテクノロジー産業やICT産業を更に振興する方針を掲げている。

都市概要

© OpenStreetMap contributors

*Taipei International Convention Center

台北市の都市・経済規模
- 人口：270万人(2019年)
- GRP：20.1兆円(2018年) ※1

国際アクセス性（桃園空港・2019年）
- 国際線就航都市：50都市
- 国際線発着回数：25.5万便

国際会議実績（ICCA件数）
- 524件 (2014-18年合計)

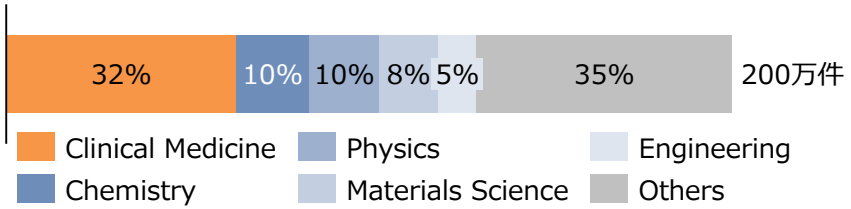
国際会議施設：TICC*
- 市内中心部に立地する大型MICE施設(最大ホール:3,112席)
- 台湾の対外貿易促進を目的に設立された台湾貿易センターが運営。
- 国際会議や製品発表会など、年間850の催事が開催される。

国際会議に係る主な取組み

- 2009年以来、政府経済部傘下の経済部国際貿易局は、台湾のMICE産業強化に取り組んできた。関連して、業界への継続的な投資のために、台湾のMICEプロモーションプログラム「MEET TAIWAN」が開始された。
- MEET TAIWANでは、海外プロモーション代表団の組織や、ターゲット市場向けのマッチング・ミーティング開催、ビザ等の手配支援など、国際会議の誘致に係るワンストップサービスを提供している。
- 台北市・台北都市圏は国際観光を重要産業としていることから、MEET TAIWANでは、海外インバウンド客の来訪が期待できる国際会議や企業ミーティング、インセンティブツアーをターゲット催事として誘致活動を行っている。

学術集積の特徴

台北都市圏における分野別論文被引用数

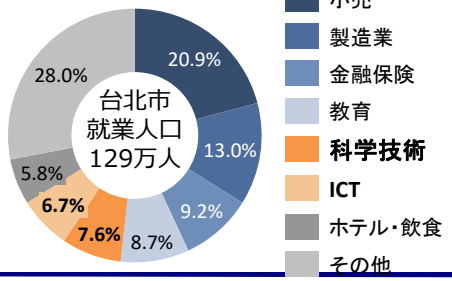


- ✓ 主要機関は台湾大学と中央研究院（合わせて6割強のシェア）。
- ✓ 台湾大学は政・財・官・学の各界に人材を輩出。化学や物理学、数理学に強みを有する（ノーベル化学賞受賞者1名を輩出）。
- ✓ 中央研究院は中華民国総統府直属の研究機関。物理学、生命科学、社会科学分野の研究、学術振興、人材育成を展開。

産業集積・戦略の特徴

【現在の主要産業】
- ✓ 台北市にバイオテクノロジーやICT産業など、知的産業が集積

台北市の産業別就業人口



【今後の産業戦略】
- ✓ 台湾政府は重点産業として「IoT」、「バイオテクノロジー・医療技術産業」、「グリーンエネルギー産業」、「スマート機械製造産業」、「国防・航空宇宙産業」等を設定。
- ✓ 台北市政府は、中央研究院が立地する台北市南港地区において、バイオ医薬を中心とするバイオテクノロジー産業の集積を推進。
- ✓ ICT産業の更なる振興にも注力。

* 1USD=111.4JPY（2018年年平均TTS）として算出。（元データはUSDで公表されている）

シドニー市・ニューサウスウェールズ州

シドニーには、シドニー大学・NSW大学等の医療分野に強みを持つ大学が立地。市内には金融・IT産業等が集積しており、今後は医療・航空宇宙・先端製造業等に注力する方針

都市概要

東京都の5倍程度

都市・経済規模（共に2018年）
- 人口：531.2万人※
- GRP：36.6兆円※

国際アクセス性
- 国際線就航都市：57都市
- 国際線利用者：1,560万人

国際会議実績（ICCA件数）
- 397件（2014-18年合計）

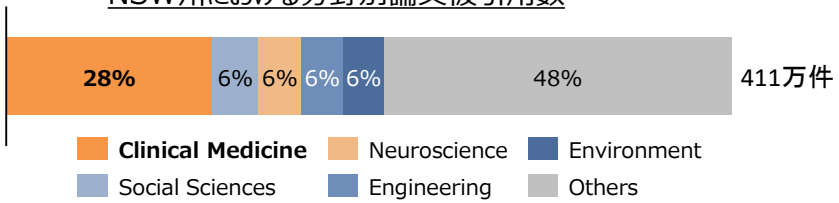
国際会議施設：ICCシドニー
- 最大ホール収容人数:8,000席
  展示面積：32,567㎡
- ダーリンハーバーに立地する南半球最大のMICE施設

国際会議に係る主な取組み

- 主なプレイヤー
  - ✓ Business Events Sydney (BESyndney)(シドニー市のCVB)
    ⇒海外事務所を設置、国際学会本部・コアPCOとの関係強化を目指す。
  - ✓ Destination New South Wales (Destination NSW)
    （ニューサウスウェールズ州の観光・MICE政策担当機関）
- 国際会議のターゲット
  - ✓ BESydneyは市・州の注力分野（IT・科学・医療・工学・金融等）と関連した大規模国際会議を重視していると推測される。
  - ✓ Destination NSWはMICE開催による経済波及効果の最大化を目指し、「高付加価値な催事の誘致・開催」「消費額の最大化」「広域観光の促進」に注力している。
- 市を挙げて、全産業でSDGsへの対応を強力に推進。
  ICCシドニーが環境に配慮した取組みを独自に展開するほか、多くのMICE関連事業者がサステナビリティに配慮した取組みを実施。

学術集積の特徴

NSW州における分野別論文被引用数



- ✓ NSW州の論文被引用数は医療分野に集中する傾向。
- ✓ シドニー大学とNSW Sydney大学が医療分野の研究を牽引している。がん研究・医療IT・免疫／感染症等の分野で強みを有する。
- ✓ 近年、オーストラリアは世界的な研究者を国外から招聘することに注力。学術界での存在感が高まると考えられる。

産業集積・戦略の特徴

NSW州地図

- ✓ シドニー市には、金融・IT産業等が特に集積。金融機関がスポンサーとして国際会議を支援するほか、IT関連スタートアップと参加者の交流機会が提供されている。
- ✓ シドニー市は今後、デジタル分野（スマートシティ等）や環境エネルギー分野を重視する方針を掲げる。
- ✓ NSW州は航空宇宙・先端製造業・医療・金融サービス・クリエイティブ産業を重点産業として選定し、国際競争力の強化を目指す。

※人口・GRPはシドニー都市圏（シドニー市を含む35自治体）の数値を示している。
なお、1豪ドル79.60円（2018年12月25日TTS）として算出。

メルボルン市・ビクトリア州

メルボルン大学やモナシュ大学など、医療分野に強みを有する学術・研究機関が多い。
金融・保険や情報通信、医療分野が主要産業であり、医療・情報通信等が今後の注力分野。

都市概要

© OpenStreetMap contributors

メルボルン市の都市・経済規模
- 人口：17.9万人(2018年)
- GRP：7.8兆円(2018年) *1

国際アクセス性
- 国際線就航都市：45都市
- 国際線発着回数：5.2万便

国際会議実績（ICCA件数）
- 314件（2014-18年合計）

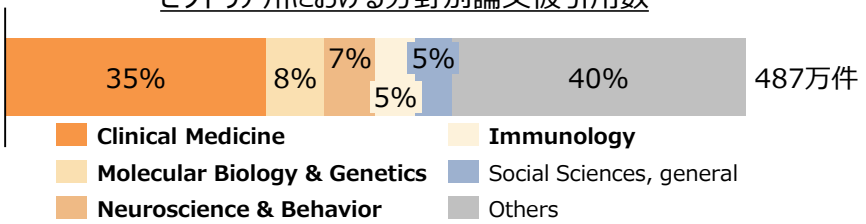
国際会議施設：MCEC *2
- 最大ホール収容人数：5,564人
  総展示面積：計39,000㎡
- 市内中心部に立地する、延床面積70,000㎡の大型複合MICE施設。

国際会議に係る主な取組み

- ビクトリア州の外郭団体であるVisitVictoria（州政府観光局）とメルボルン市が、Melbourne Convention Bureau (MCB)を共同で運営し、国際会議の誘致活動を実施している。
- ビクトリア州政府は、国際会議参加者の広域観光の促進（Bleisure）に注力している。例えば、ビクトリア州内に立地する事業者と連携し、観光コンテンツの開発や、州内への送客に取り組んでいる。
- 経済波及効果の増額に向け、大規模国際会議をターゲットとしている。
  また、ビクトリア州政府は、新規市場開拓として、中国などアジアに拠点を有する団体が主催する国際会議等に焦点を当てている。

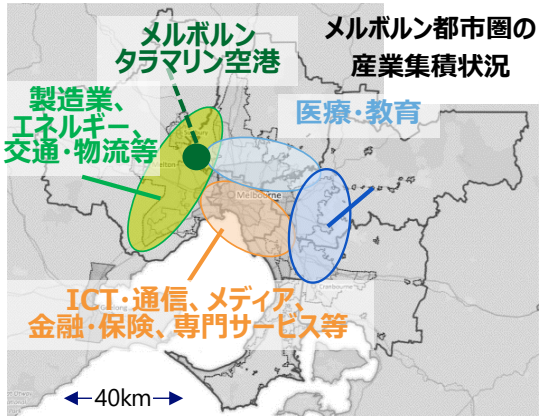
学術集積の特徴

ビクトリア州における分野別論文被引用数



✓ ビクトリア州の論文被引用数に占める医療分野（臨床医学・分子生物学・遺伝学・神経学・免疫学等）の割合は約6割と高い。
✓ 主要大学であるメルボルン大学とモナシュ大学は共に医療分野に強みを有する。メルボルン大学はノーベル医学・生理学賞を6名輩出しており、モナシュ大学は心臓治療分野に強みを有する。

産業集積・戦略の特徴



【今後の産業戦略】
✓ 国際教育・研究や医療、情報通信産業が、市の注力分野として設定されている。
✓ メルボルン市周辺地域の重点産業としては、高度製造業、金属加工業、エネルギー産業、食品製造業、繊維製造業、医薬品製造業が設定されている。

*1 オーストラリア・ドル84.6円（2018年平均為替レート＜TTS＞）として算出。
*2 正式名称は、Melbourne Convention Exhibition Centre

トロント市・オンタリオ州

医療分野の研究が盛んで、トロント大学は医療や環境、宇宙等を重点的な研究分野として設定。トロント市の主要産業は金融・情報通信関連業。これらの分野やフィンテック分野等に注力する方針

都市概要

© OpenStreetMap Contributors

トロント市の都市・経済規模
- 人口：296万人(2018年)
- GRP：16.7兆円(2018年) *1

国際アクセス性
- 国際線就航都市：173都市
- 国際線発着回数：45.3万便

国際会議実績（ICCA件数）
- 314件（2014-18年合計）

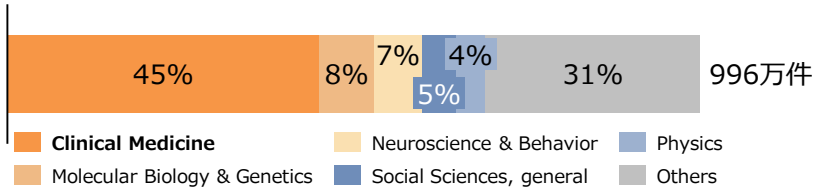
国際会議施設：MTCC *2
- 最大ホール収容人数：3,400人
  総展示面積：計65,000㎡
- トロント市内中心部に立地するカナダ最大のMICE施設。

国際会議に係る主な取組み

- トロント市では、地域の観光・MICEに係る施策を実施する組織として、トロント市・オンタリオ州・グレータートロントホテル協会が共同でDestination Torontoを設立。トロントにおける国際会議誘致の取組みを行っている。
- Destination Torontoは、金融産業・情報通信産業・医療産業・先端製造業・食品産業を注力分野に設定している。
- Destination Torontoは、地域に立地する企業、大学・研究機関等に所属する研究者等とネットワークを構築するため、Leaders Circleプログラムを設立（2020年時点で約200人が加盟）。Destination Torontoはこれを活用し、国際会議の案件掘り起こし・国際会議主催者との連携推進を実施している。
- また、Destination Torontoはオタワ、シカゴ、ワシントンD.C.に事務所を設置しており、国外に拠点を置く主催者と関係を構築している。

学術集積の特徴

オンタリオ州における分野別論文被引用数



- ✓ オンタリオ州の論文被引用数は臨床医学の他、分子生物学・遺伝学、神経科学・行動学等、医療分野に集中しており、全体の約6割を占める。
- ✓ トロント大学がオンタリオ州の医療分野を牽引。トロント大学は、人間・宇宙*3 、環境・サステナビリティ、医療、言語・文化、多様性・社会正義、テクノロジー、コミュニティの各分野を重点的な研究分野と設定している。

産業集積・戦略の特徴

【現在の産業集積状況】
- ✓ 市内GRPの約2割を占める金融や、従業者数6万人を占める情報通信・通信機器等製造業が主要産業。
- ✓ オンタリオ州には北米最大規模の自動車製造業の集積が見られる。また、農業・食品関連産業の集積も北米最大規模。ネスレ・コカコーラ等の大企業が拠点を置いている。

【今後の産業戦略】
- ✓ トロント市は情報通信業・製造業・金融サービス業・バイオ産業の振興プログラムを用意。また、フィンテック分野の強化にも注力。
- ✓ オンタリオ州は、カナダ政府により次世代製造業のクラスター形成を推進。トロント市周辺では特に、情報通信・電子部品製造業や食品加工・製造業の集積を目指している。

*1 1カナダ・ドル=86.9円（2018年平均為替レート＜ITS＞）として算出。
*2 正式名称はMetro Toronto Convention Centre。
*3 人類や宇宙の起源や、人類の進化（脳の複雑な仕組みを持つに至った理由など）を指す。

シカゴ市・イリノイ州

物理学・医学に強みを有するシカゴ大学など、世界大学ランキング上位の大学が複数立地。シカゴ市はIT技術を活用した、既存の集積産業(医療・ヘルスケアや製造業等)の高度化に注力。

都市概要

© OpenStreetMap contributors

シカゴ市の都市・経済規模
- 人口：269万人 (2019年)
- GRP：76.8兆円 (2018年)*1

国際アクセス性（シカゴ・オヘア国際空港）
- 国際線就航都市：38都市(2020年)
- 国際線発着回数：9.7万便(2019年)

国際会議開催実績
- ICCA件数 (2014-18年)：合計254件

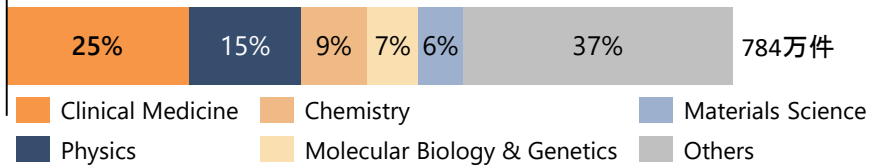
国際会議施設：McCormick Place
- 2つのアリーナや6つの展示ホール（計約25万㎡）を備えたアメリカ最大の施設*2。
- 国際空港から約30分のアクセス、宿泊施設や飲食施設の集積など、国際会議を開催しやすい環境が整っている。

国際会議に係る主な取組み

- シカゴ市では、同市DMOであるChoose ChicagoのMeeting and Convention Sales部門が大型国際会議の誘致活動を行っている。
- 全米病院ランキングに7施設が上位に入るなど、市内に100を超える医療機関が集積していること、また米国医師会・米国歯科医師会・米国病院協会など約40の国立医療・ヘルスケア系機関が集積していること、そして市・州政府がテクノロジー産業の振興を主導していることなどを背景とし、医療や科学技術、イノベーション系の国際会議誘致に注力している。
- Choose Chicagoは、アメリカ臨床腫瘍学会（ASCO）や北米放射線学会（RSNA）などの医学会と長期開催契約を締結するなど、大規模国際会議の安定的な誘致を実現している。

学術集積の特徴

イリノイ州における分野別論文被引用数



- ✓ シカゴ大学・ノースウェスタン大学・イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校など、世界ランキング上位の大学がイリノイ州に立地。
- ✓ シカゴ大学は経済学や物理学・医学に、ノースウェスタン大学は化学・医学に、イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校はコンピューター・サイエンス分野に強みを有している。

産業集積・戦略の特徴

【産業集積】
- ✓ シカゴ市が属するイリノイ州北部を中心に、金融やICT・通信、ヘルスケア、航空・宇宙や自動車関連分野の製造業が集積しており、中部・南部には農業関連の製造業などが集積。
- ✓ 航空・宇宙分野では、ボーイングやユナイテッド航空などの企業がシカゴ市に本社を置く。

【今後の産業戦略】
- ✓ シカゴ市は医療・ヘルスケアや製造業をはじめとする既存産業を、IT・デジタル技術を用いて高度化することに注力。
- ✓ イリノイ州では多くの大学が学内にインキュベーション施設を設置するなど、大学がイノベーション創出をリード。バイオテクノロジーやソフトウェア・IT、ヘルスケアなど様々な分野の大学発スタートアップが誕生している。

Japan. Meetings & Events
New ideas start here

*1 1USD=111.4JPY（2018年年平均TTS）として算出。
*2 アリーナの規模は約1万席と約4,000席。展示ホールは6ホール合計で約25万㎡。

シティオブロンドン・ロンドン※

UCLなど世界的な大学・研究機関が多数立地しており、特に医療分野の学術集積が厚い。主要産業は金融・保険、情報通信、ヘルスケアであり、これらの産業が重点産業に設定されている。

都市概要

© OpenStreetMap contributors

ロンドンの都市・経済規模
- 人口：898.2万人(2019年)
- GVA*1：73.8兆円(2019年)

国際アクセス性（ヒースロー空港）*2
- 国際線就航都市：162都市
- 国際線発着回数：43.7万便

国際会議実績（ICCA件数）
- 900件（2014-18年合計）

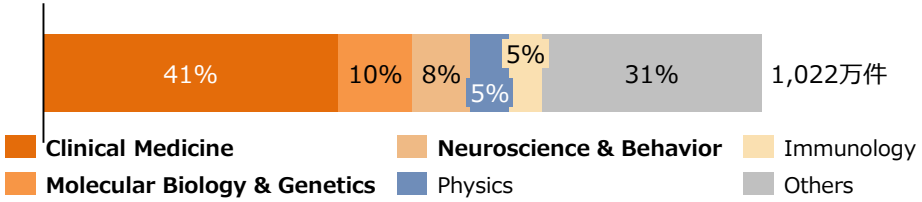
国際会議施設：ExCel London
- 最大ホール収容人数：4,500人
  総展示面積：87,328㎡
- ロンドンのウォーターフロント再開発地区に整備された欧州最大級の施設。

国際会議に係る主な取組み

- ロンドンの貿易・投資促進を所管するLondon & Partnersは、MICEの誘致組織としてLondon Convention Bureauを設置。
- London & Partnersは、イベント開催件数・開催規模・経済波及効果を重視。2019年には金融関連IT技術をテーマとする国際会議・展示会であるSibosを開催、2023年にはロボット・自動化の世界最大の国際会議(ICRA *3)の誘致に成功する等、世界的な大規模国際会議の誘致に注力。
- 国際会議誘致のターゲット分野は、ロンドンが強みを持っている金融・ビジネスサービス、クリエイティブ産業、ライフサイエンス、都市開発、観光としている。

学術集積の特徴

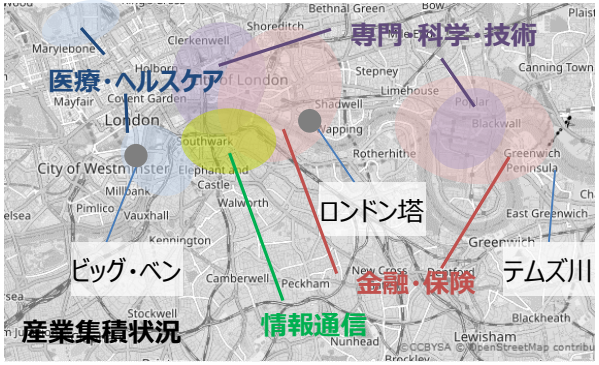
ロンドンにおける分野別論文被引用数



✓ ロンドン全体の論文被引用数は約1,022万件（東京都の論文被引用数は約330万件）。UCLやImperial College Londonなど世界的な大学・研究機関がロンドンには多数立地していることがこの理由。

✓ 論文被引用数に占める医療分野（臨床医学・分子生物学・遺伝学・神経学・免疫学等）の割合が約7割と高く、医療分野の集積が厚い。

産業集積・戦略の特徴



✓ 金融・保険、専門・科学・技術、情報通信、医療・ヘルスケアが主要産業

【今後の産業戦略】
✓ ロンドンでは地域に集積する6産業（ライフサイエンス・金融・情報通信など）を重点産業に設定。
✓ さらに、都市インフラや医療サービス等におけるデジタル化の推進やスマートシティの実現を目標として掲げている。

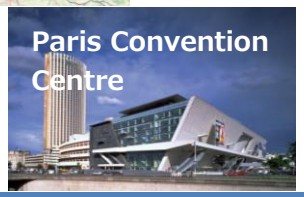
※この資料では、ロンドンはグレーターロンドンを指す。シティオブロンドンはグレーターロンドン中心部の、約3km²の小規模な地区を指す。
*1 1ポンド151.5円（2018年平均為替レート＜TTS＞）として算出。なお、GVA（粗付加価値額）と域内総生産の関係は、粗付加価値額＋生産品にかかる税-補助金＝域内総生産。
*2 ロンドン近郊にはロンドン・ガトウィック空港などもあるが、それらは含まない。 *3 正式名称は、International Conference on Robotics and Automation

パリ市・イル＝ド＝フランス地域圏*1

フランスの著名な大学（ソルボンヌ大学等）や研究機関（CNRS, Insern）の大半が立地。欧州最大の経済圏として、航空・宇宙・防衛、自動車、ICT、ヘルスケア等、多様な産業が集積。

都市概要

© OpenStreetMap contributors



パリ市の都市・経済規模
- 人口：220万人（2018年）
- GRP：N/A

国際アクセス性（2019年）*2
- 国際線就航都市：183都市
- 国際線発着回数：42.0万便

国際会議実績（ICCA件数）
- 1,001件（2014-18年合計）

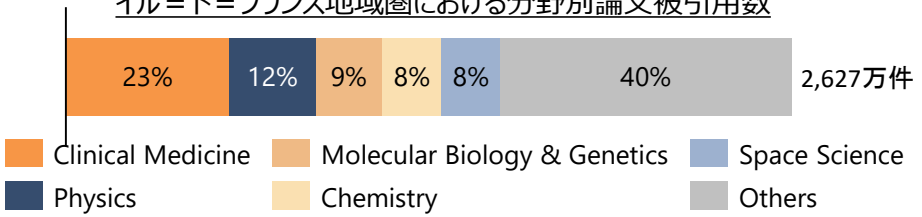
国際会議施設：
Paris Convention Centre
- 最大ホール収容人数：5,200席
- パリ郊外の複合MICE施設Paris Expo Porte de Versailles*3内に位置する大型MICE施設。

国際会議に係る主な取組み

- イル＝ド＝フランス地域圏においては、Viparis社が、Paris CVB（パリ市観光局）と共同で大型国際会議や展示会の誘致活動を行っている。
- Viparis社は、CCI Paris Il-de-France（パリ商工会議所）とUnibail-Rodamco（民間不動産投資会社）の合弁会社。Paris Convention Centreを含むパリの大規模MICE施設10施設の運営も担っている。
- Paris Convention Centreでは、ロンドンやマドリードなどの欧州主要都市から3時間以内に位置する地理的優位性を強みとし、欧州内で開催される国際会議を積極的に誘致・開催。
- 2,000人以上の規模の大型国際会議（特に欧州内をローテーションする会議）に加えて、医療分野の学会やIT分野の企業ミーティングを優先的な誘致対象催事と位置付けている。

学術集積の特徴

イル＝ド＝フランス地域圏における分野別論文被引用数



- ✓ ソルボンヌ大学（自然科学や生物化学・医学に強み）やパリ大学等の有力大学に加え、フランス国立科学研究センター（CNRS）やフランス国立保健医療研究所（Inserm）などの有力な研究機関が集積
- ✓ CNRS *4は物理学・数学・化学など幅広い分野の基礎研究を担う。Insernは遺伝学・免疫学に強みを有する。

産業集積・戦略の特徴

- ✓ 北東部のシャルルドゴール空港周辺には航空・宇宙・防衛産業が集積。
- ✓ 南西部にはICT・通信・イノベーション産業が集積。
- ✓ パリ市中心部には、メディア・エンタメ、金融、生物医学・ヘルスケア産業等が集積。
- ✓ 今後は環境・エコ技術やバイオテクノロジー分野にも注力する方針。

Japan. Meetings & Events
New ideas start here

*1 イル＝ド＝フランス地域圏は約1.2万km²、東京都（約2,200km²）の約5.5倍。
*2 パリ・シャルルドゴール空港のデータを記載　*3 Paris Expo Porte de Versailles は総展示面積21.6万㎡を誇る
*4 大学等に設置されている数多くの研究室がCNRSの管轄に置かれている（CNRS所属の研究者が全員パリやイル＝ド＝フランス地域圏にいるわけではない）。

ベルリン市・ベルリン・ブランデンブルク大都市圏

ドイツ最大の科学研究組織であるヘルムホルツ協会やフンボルト大学が主要な学術・研究機関。ヘルスケア(医療機器・製薬)・航空宇宙産業が主要産業で、近年はヘルスケア等に注力。

都市概要

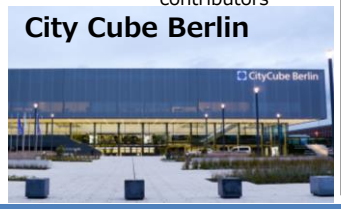
© OpenStreetMap contributors

ベルリン市の都市・経済規模
- 人口：360万人 (2018年)
- GRP：19.4兆円 (2018年) *1

国際アクセス性（2018年）*2
- 国際線就航都市：71都市
- 国際線発着回数：11.7万便

国際会議実績（ICCA件数）
- 919件（2014-18年合計）

国際会議施設：
CityCube Berlin
- 最大ホール：6,015㎡
- 上記の多目的ホールに加えて、中小会議室（計6,015㎡）があり、国際会議で利用しやすい施設構成となっている。

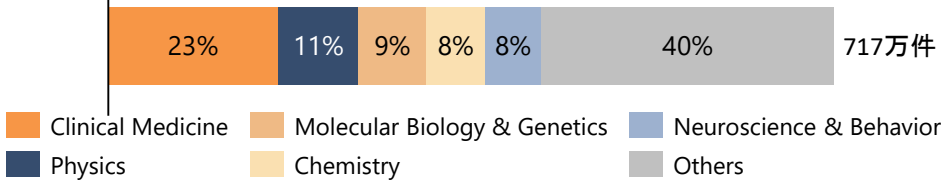


国際会議に係る主な取組み

- ベルリン市においては、CVBであるThe Berlin Convention Office of visitBerlinが大型国際会議の誘致活動を行っている。
- 市内に大学や研究機関、製薬関係の団体・組織をはじめ、主要な協会や組織団体の本部が多数存在することから、薬学・科学・IT・電子工学・コミュニケーション等の先進的な分野に関連する国際会議を多く誘致している。
- visitBerlinは、大型国際会議を誘致するために、市内の工場や邸宅等をユニークベニューとして活用するなど、特徴的な誘致活動を行っている。
- また、「Berlin Speakers Pool」と呼ばれる制度を設け、有識者の登壇セッションにおいて、主催者と登壇者をマッチングさせるサポートを提供している。

学術集積の特徴

ベルリン・ブランデンブルク大都市圏における分野別論文被引用数



- ✓ ヘルムホルツ協会*3とフンボルト大学*4が主要な学術・研究機関。
- ✓ ドイツ最大の科学研究組織であるヘルムホルツ協会は、自然科学（素粒子物理学）、工学（航空・宇宙）、医学（癌、感染症）を重点分野としており、近年は特にヘルスケア分野に注力している。
- ✓ フンボルト大学は、化学・物理学・生理学・医学に強みを有する。

産業集積・戦略の特徴

- ✓ ベルリン・ブランデンブルク大都市圏の産業は、ベルリン市内と周辺地域に集中（左図）。
- ✓ ベルリン市は、生命科学に関する研究機関の集積等を背景に、ヘルスケア分野に強みを有する。
- ✓ ベルリン市は、「ヘルスケア」、「ICT・メディア・クリエイティブ」、「フォトニクス（光工学）」等を重点産業に指定し、クラスター形成を進めている。

*1 1EUR=131.9JPY（2018年年平均TTS）として算出。 *2 ベルリン・ブランデンブルク国際空港は2020年10月開港のため、主要空港としたテーゲル空港（同年11月閉港）の値を記載
*3 正式名称はドイツ研究センターヘルムホルツ協会。ドイツ各地に計19の研究機関を有する組織で、本部がベルリンに置かれている。ベルリンにはHelmholtz Center for Materials and EnergyとMax Delbrück Center for Molecular Medicine in the Helmholtz Associationの2研究機関が立地。 *4 正式名称はベルリン・フンボルト大学。

オーフス市・ビジネスリージョン・オーフス

医療やナノサイエンス、環境等の分野に強みを有するオーフス大学が地域の中心的な学術機関。情報通信・IT産業や、食糧・食品産業、ライフサイエンス産業のさらなる振興を目指している。

都市概要

ビジネスリージョン・オーフス

© OpenStreetMap contributors

オーフス市の都市・経済規模
- 人口：34.5万人 (2019年)
- GRP：N/A

国際アクセス性[*1](コペンハーゲン空港)
- 国際線就航都市数：182都市

国際会議実績（ICCA件数）
- 129件（2014-18年合計）

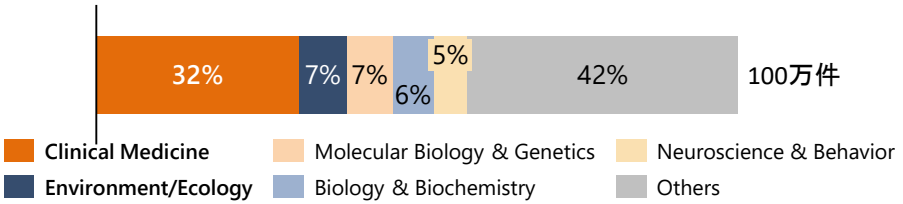
国際会議施設：
Aarhus Congress Center
- 最大ホール収容人数：1,600人[*2]
- ビジネスリージョン・オーフスで最大規模のMICE施設。中心部に立地しており、周辺にはビジネスリージョン・オーフス最大規模の商業・飲食施設が整備されている。

国際会議に係る主な取組み

- The VisitAarhus Convention Bureau（以下、VACB）は、オーフス大学と連携し、医学・自然科学・テクノロジー・ビジネス・アート分野に関連する国際会議の誘致に注力している。
- VACBは国際会議の誘致に向け、入札支援を実施。誘致決定後はオーフス大学が開催支援等を提供する仕組みとしている。オーフス大学は産業分野別に担当窓口を設置しており、各主催者のニーズにあわせた支援を実施。
- オーフス大学は持続可能な会議の誘致・開催に係るガイドラインを策定している。オーフス大学は環境保全などに寄与する地域の関連事業者リストを作成し、主催者・参加者に提供している。また、オーフス大学は参加者向けのギフトとして、BPAフリー[*3]のウォーターボトルやオーガニックコットン製のトートバッグを製造し、主催者に提供している。

学術集積の特徴

ビジネスリージョン・オーフスにおける分野別論文被引用数



- ✓ オーフス大学の論文被引用数（約100万件）は京都大学と同規模。
- ✓ オーフス大学は、神経科学をはじめとする医療、ナノサイエンス、環境等の分野に強みを持っている。また、オーフス大学に設置されている著名な研究施設として、MINDLab（神経科学）、iNANO（ナノテクノロジー）、デンマーク環境エネルギーセンター（エネルギー）が挙げられる。

産業集積・戦略の特徴

【オーフス市の集積産業】
- ✓ 情報通信・IT産業が集積。
- ✓ オーフス港は海運物流の要衝としての地位を確立しており、物流業も盛ん（右上に続く）
- ✓ オーフス市は、市内の情報通信・IT産業の振興に向け、IT関連スタートアップやグローバル企業と連携しスマートシティの実現を目指している。

【ビジネスリージョン・オーフス】
- ✓ Agro Food Park（食品関連企業が多数入居）を中心に、先端農業の研究や健康食品の開発を更に推進しようとしている。
- ✓ 域内最大の病院であるオーフス大学病院を中心に、ライフサイエンス・ヘルスケア分野を振興する方針。

*1 コペンハーゲン空港⇔オーフス空港の飛行時間は約40分・週28便運行。オーフス空港の国際線就航都市数は13都市であり、国際学会参加者の多くはコペンハーゲン空港からの乗り継ぎと想定される。
*2 このホールは多目的ホールであり、展示ホールとしても活用可能（1,782㎡）。
*3 BPA（ビスフェノールA）は主にプラスチックの原料として利用されている。食品用容器や缶詰めの内面塗装から容器内の飲食物へ移行することがあり、微量だが、人間が摂取する可能性があり、健康被害が懸念されている。

グルノーブル市・イゼール県

国際的な研究施設がグルノーブル市に集積。特に物理学・宇宙科学分野の学術集積が厚い。既に盛んな電子部品製造業へのさらなる注力や、環境エネルギー分野の振興が目指されている。

都市概要

© OpenStreetMap contributors

グルノーブル市の都市・経済規模
- 人口：15.8万人（2017年）
- GRP：N/A

国際アクセス性[*1]
- リヨン空港から約1時間

国際会議実績（ICCA件数）
- 59件（2014-18年合計）

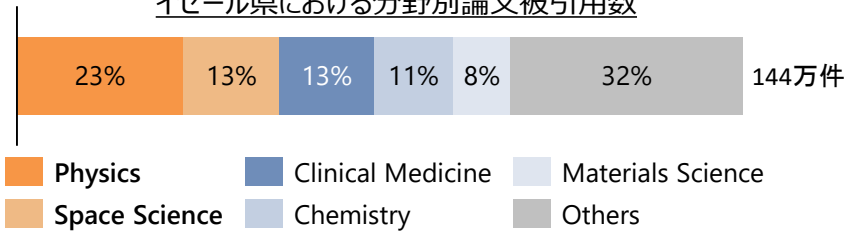
国際会議施設：
Alpexpo Alpes Congrès
- 最大ホール収容人数：2,987人
  展示面積：42,000 ㎡
- 域内最大規模の国際会議施設であり、展示会併設型の会議にも対応できる。

国際会議に係る主な取組み

- グルノーブル市と周辺の48自治体が「グルノーブル・アルプス都市圏[*2]」の観光局を設置しており、観光局がコンベンションビューローを所管している。
- コンベンションビューローは、マイクロ・ナノテクノロジー、コンピューター科学、健康・医療、エネルギー、化学・環境、冶金・機械学等、地域に集積している産業・学術に関連する国際会議の誘致に注力している。
- グルノーブル・アルプス都市圏では、アルプス周辺の観光資源を活用した広域観光プログラムを開発し、国際会議の参加者向けにも提供している。

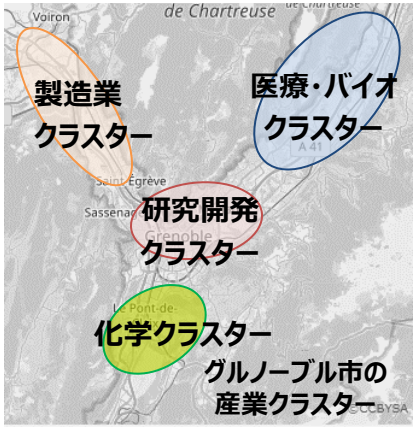
学術集積の特徴

イゼール県における分野別論文被引用数



- ✓ 物理学・宇宙科学分野の学術集積が厚いことが特徴。
- ✓ 欧州シンクロトン放射光施設や電波天文学国際研究所など、国際的な研究施設がグルノーブル市に集積。これらの研究機関とグルノーブル・アルプ大学が積極的に連携しており、小規模都市ながら学術集積が厚くなっている。

産業集積・戦略の特徴



© OpenStreetMap contributors

- ✓ グルノーブル市には製造業（特に電子部品）、医療・バイオ、化学、研究開発クラスターが形成されている。
- ✓ イゼール県は化学品製造業・電子部品製造業が特に盛ん。生産額ベースでイゼール県は、欧州第2位の化学品生産地域となっている。
- ✓ グルノーブル市は環境・エネルギー分野の振興を目指す。またイゼール県は、電子部品製造業の高度化に注力する方針を掲げる。

*1 リヨン空港の国際線就航都市数は77都市。このほとんどは、ロンドンやミラノ、フランクフルトなど欧州内の都市である。
*2 グルノーブル・アルプス都市圏はフランスの地方自治法に基づき設立された大都市圏（2015年1月発効）。
グルノーブル市周辺の49自治体によって構成されており、南北約40kmに伸びる縦長の都市圏となっている。

マルメ市・ルンド市

癌研究や糖尿病等に強みを有するルンド大学が中心的な学術機関。医療分野の集積が厚い。マルメ市は物流・製造・加工業を中心に発展。ルンド市はライフサイエンス・ICT産業が集積している。

都市概要

マルメ市の都市・経済規模
- 人口：34.4万人（2019年）
- GRP：2.0兆円（2017年）*

ルンド市の都市・経済規模
- 人口：12.5万人（2019年）
- GRP：8,786.1億円（2017年）

国際会議実績（ICCA件数）
- マルメ：合計79件（2014-18年）
- ルンド：合計88件（同上）

国際アクセス性 (コペンハーゲン空港) *1
- 国際線就航都市数：182都市

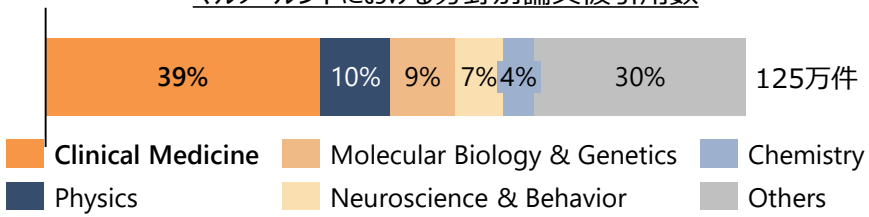
主要会議施設
①**Malmömässan** 最大ホール収容人数：550人／展示面積：10,000㎡
②**AF Borgen** 最大ホール収容人数：500人／展示面積：550㎡

国際会議に係る主な取組み

- マルメ市は、広域自治体の枠組み（コペンハーゲンを中核としたWonderful Copenhagenやスウェーデンコンベンションビューローのネットワーク）を活用し、自都市のプロモーションを実施。また、マルメ市全体のサステナビリティ対応力の高さを強みとして、国際会議の開催に係る都市のPRを実施している。
- ルンド市は地域に集積する産業と関連した小規模国際会議を誘致ターゲットに設定。地域の研究者等と連携し、アンバサダープログラムを設置している。また、地域に立地する企業・大学と連携し、テクニカルビジットを企画・運営するなど、独自の取組みを通じた誘致活動を展開している。

学術集積の特徴

マルメ・ルンドにおける分野別論文被引用数



- ✓ 医療分野（臨床医学・分子生物学・遺伝学・神経学等）の割合が5割を超えるなど、医療分野の集積が重厚となっている。
- ✓ ルンド大学がスウェーデン南部の主要な大学・研究機関。論文被引用数の約8割のシェアを誇る。ルンド大学は癌研究・糖尿病・疫学・神経学・幹細胞等の研究に強みを持っている。

産業集積・戦略の特徴

【マルメ市】
- ✓ マルメ港に面するマルメ市は物流・製造・加工業を中心に発展。
- ✓ また、コペンハーゲンに近接しており国際アクセス性が良いこともあり、Sony Ericsson, IKEA等の世界的な大企業が立地。
- ✓ 近年は脱工業化を志向。今後はライフサイエンス・メディア/ICT・クリエイティブ産業に注力する方針を掲げる。

【ルンド市】
- ✓ ライフサイエンス・ICT産業の集積が厚い。また、携帯電話・Bluetooth・指紋読み取り機等、世界的な技術が生まれた「アイデアの街」として知られている。
- ✓ 地域に整備される放射光施設やパルス中性子源研究施設での研究成果を活用し、これらの集積産業を高度化しようとしている。

*1 マルメ市内には、マルメ空港（国際線就航都市数は48都市）もあるが、特にヨーロッパ外からの参加者は、コペンハーゲン空港の利用が多いと考えられる。